平成 30 年 11 月 5 日発行　毎月 1 回 5 日発行　オイスカ通信 661 号　昭和 42 年 12 月 27 日　第三種郵便物認可　別紙

# 公益財団法人 オイスカ FURUSATO！ 11 月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

## 第26回オイスカ四国のつどいを盛大に開催！

10月19日(金)第26回オイスカ四国のつどいがホテルパールガーデンで開催されました。

当日はオイスカ本部から中野理事長と永石専務理事に参加いただき、17時から前半の部を開催し、50年・40年・30年の継続会員への本部表彰や20年の継続会員への支部表彰、オイスカ国際協力活動の最新報告と今後の展望などについての講話が行われました。続いて、18時30分から後半の部を開催し、オイスカソング「いのち輝け」の新バージョン(稲田覚オイスカ四国支部副会長編曲)斉唱に続いて、四国と西日本(福岡県)の両研修センターの研修生紹介などを行い、乾杯！大盛会となりました。また、佐藤忠義オイスカ四国支部初代会長が参加され研修生達を激励してくださいました。12月に研修修了・帰国が予定されている研修生6名にとり非常に思い出深い機会となったようです。引き続き支部と研修センターが車の両輪のように一体となり、四国の地での更なるオイスカ活動の発展を期した四国のつどいでした。皆様ご参加ありがとうございました。(池田)

中野理事長よりご祝辞をいただきました。

四国研修センターと、西日本研修センターの研修生、総勢32名が一緒に踊ったメケ（フィジーのダンス）は迫力がありました。

## オイスカ・MUFG従業員交流会

オイスカの活動に対して毎年多額の援助を頂いている、MUFG（株式会社　三菱UFJフィナンシャル・グループ）の従業員様とそのご家族様との交流会が、10月20日（土）に四国研修センターで開催されました。参加者は、MUFGが27名、四国研修センターから18名、この日のために来所した、福岡県にある西日本研修センターより、研修生ら20名、合計65名が四国研修センターに集いました。

開会式後、自己紹介をして班分けをし、研修生の自国の有名な料理作りにチャレンジしました。インドネシアのサテ(焼き鳥)、ベトナムの生春巻き、メキシコのタコス等が上手に出来上がり、研修生と会話をしながら、美味しくいただきました。

昼食後は、四国研修センターの活動報告や研修生との交流、田へ移動して稲刈りを体験していただきました。

稲刈り後、再度研修センターへ帰り、閉会式を行い、班ごとに感想を述べていただきました。参加されたほとんどの方が、「多くの研修生と交流が出来るし、西日本研修センターで作った新米もお土産でいただけるので来年も是非、交流会に参加したい。」と言ってくださいました。(小野)

国の料理を研修生の主導により、みんなで楽しく作りました！

ーワークショップー
自分の国のいいところを詰め合わせて、「理想の国」をグループで考え中。

## 海外のお菓子を召し上がれ！

10月8日(月)、高松市にあるアイパル香川で「かがわ国際フェスタ」が開催され、研修生が国のお菓子を販売しました。このイベントでは、オイスカの紹介はもちろんですが、研修生の勉強もかねて毎年参加しています。具体的にはお菓子作りと販売を通して、商品開発や収支計算、マネージメントなどを実践的に学ぶことを目的としています。お菓子作りでは自国とは違う材料に苦労しながら何度も試作を繰り返し、味・見た目・価格を工夫しました。当日は、多くの来場者が訪れていました。いろいろな国が集まり元気に呼び込みをするオイスカのブースは注目を集め、その様子はローカルテレビでも放映されました。研修生に感想を聞くと、販売で説明するのが緊張した、おいしいと言ってもらえてうれしかった、早く完売したのでもっとたくさん作ればよかった等、反省もありましたが、良い経験になったようです。ご購入いただいた皆様どうもありがとうございました。(永山)

## 国際ボランティア　紹介

はじめまして。加賀瀬悠(かがせ　ゆう)です。10月より国際ボランティアとして、四国研修センターに来ています。出身地は、数年前に「真田丸」で話題になった、長野県上田市です。会社員として約10年間働いた後、以前より関心のあった国際協力の仕事を志望して、オイスカの国際ボランティアに応募しました。現在は、研修生たちと寝食と活動を共にしています。農業は初めてなので苦戦していますが、香川県での3ヶ月間を楽しみながら、活動に励みます。よろしくお願いいたします。

研修生と楽しく稲刈り中です。

## 案　内

### 四国支部主催
### 第23回「山・林・SUN体験」

**以前、植えたヤマザクラを維持するための下草刈り作業を行います。**

**日時　11月11日(日)**
**10時～12時（軽食付き）**
**場所　まんのう町　尾の瀬山**

詳しくは、四国支部まで!
TEL　087-821-1503

### 平成３０年度研修生　修了式

**地域開発研修生　ジュタ、オードリー**
**ミラ、ビオレタ、ピョー**
**家政研修生　アリン**

**６名の修了式を行います。**
**研修生の立派な姿をぜひ目に焼き付けてください！**
**日時　12月8日(土)　16時～**

### 11 月の予定

| 月日 | 曜日 | イベント名 | 主催・協力 | 場所 |
|---|---|---|---|---|
| 11 月 7 日 | 水 | 四国支部常任幹事会 | 四国支部 | 四国支部 |
| 11 月 11 日 | 日 | 尾の瀬山「山・林・SUN体験」<br>国際ソロプチミスト丸亀チャリティバザー | 四国支部<br>国際ソロプチミスト丸亀 | まんのう町<br>丸亀市 |
| 11 月 16 日 | 金 | インドネシア介護技能実習生入国 | 医療・福祉・人財ネットワーク協同組合 | 関西空港<br>四国研修センター |
| 11 月 17 日 | 土 | センター収穫感謝祭 | 綾川推進協議会 | 四国研修センター |
| 11 月 20･21 日 | 火・水 | 広島視察研修 | 広島県支部 | 広島県 |
| 11 月 27 日 | 火 | 技能実習生　デニス修了式<br>技能実習生　基礎研修修了式 | 四国研修センター | 四国研修センター |
| 11 月 29 日 | 木 | 香川県知事表敬訪問<br>綾川町長表敬訪問 | | 香川県庁<br>綾川町役場 |

「FURUSATO！」11 月号　発行
公益財団法人　オイスカ四国研修センター
〒761-2103　香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL　087-876-3333　FAX　087-876-3334
E-mail; oiscastc@oisca.org

古本で！「子供の森」計画サポートプロジェクト　OISCA × VALLE BOOKS

# 来て・見て・触れて・楽しもう～！

## 第11回オイスカふるさと祭り

10月27日（土）、天気予報では雨でしたが、開会時には、思わぬ快晴でふるさと祭りを開催することができました。昨年はお休みさせてもらい、今回で11回目ということで再開いたしました。

例年の研修生の国のダンスや料理、地元のうどんや、その他、催しに加え、今回は体験ブースの充実ということで、フィリピンで行われている養蚕の事業を元に、センターで飼育した蚕のまゆを使った「まゆ人形」作りやストラックアウト、その他外部団体よりどんぐり工作など、子供と一緒に大人にも楽しんでもらいました。

また今年は、研修生とより関わってもらおうと研修生にちなんだクイズラリーを行い、多くの参加者が研修生に色々と話しかけるきっかけとなり、交流を深めることが出来ました。

このふるさと祭りは来場者にオイスカを知ってもらうのは勿論、ボランティアや出展に関わって頂いている人たちのつながりの場でもあります。多くの方がオイスカを通じて出会い、新しい活動に大きく関わることもあります。

オイスカの提唱する「ふるさと作り」を四国センターでも進めて行くためには、まずセンターや研修生を多くの人に知ってもらわなければなりません。このふるさと祭りで少しでもその成果があったのではないかと思います。

ご来場いただいた皆様、出演、出展して頂いた方々、ボランティアの皆様、どうもありがとうございました。また来年もよろしくお願いいたします。

（矢野）

玉木衆議院議員もクイズラリーに挑戦！

## ふるさと祭り実行委員会

ふるさと祭りを企画、運営をするうえで毎回ふるさと祭り実行委員会を立ち上げています。これはオイスカスタッフだけでなく様々な視点で祭りを盛り上げるために十分な企画を外部の方達と一緒に作り上げるために設立されました。

今回も日頃、オイスカ活動に協力頂いている方々とステージ出演やブース出展、祭りの内容、進行など話し合いました。

オイスカからの立場と外部からの視点でどのようにすれば盛り上がるのか色々と協議がなされました。またこの委員会の中でもオイスカがどのようにすればより改善していけるのかなど、ふるさと祭り以外にも非常に有意義な議論をすることが出来ました。

来年も同じように委員会を立ち上げます。ふるさと祭りを一緒に盛り上げて頂くと共に、オイスカへの進言もして頂ける方がいらっしゃいましたら是非ご参加ください。

（矢野）

当日も研修生のサポートなど色々動いて頂きました。

# アクションプラン発表

10月11日（木）に、家政研修生のアリンと、地域開発研修生5名によるカントリーレポートの発表がありました。ここでは、12月に帰国する研修生が、帰国後の予定を発表します。当日は、日本語の先生6名が聞きに来てくださいました。

研修生は9月から準備を始め、自分の計画は「誰を対象としているのか」や、「必要な予算」など、現実化するために細かいところまで考えました。職員からたくさんのアドバイスをもらいながら、何度も練り直し、毎日頑張っていました。

15分という発表時間は、研修生にとっては長い時間だったと思います。練習通りに行った人や、緊張で上手くいかなかった人など様々ですが、無事発表を終えることが出来ました。残りの研修もあとわずかとなってきたので、帰国後のために最後まで頑張って欲しいです。（金澤）

## 「みんなのやりたい！」をご紹介!!

### ～有機農業をする～　ジュタ

フィジーで自分の畑を持っています。そこで、地元の人と一緒に有機農業をします。

### ～食品加工を教える～　ピョー

ミャンマーの研修センターでスタッフとして、研修生に食品加工を教えます。また、商品をいろんなお店に販売して、オイスカを多くの人に知ってもらいたいです。

### ～子供たちに環境教育～ ミラ

マレーシアの子供たちに木や野菜の植え付けや、管理をしてもらい、自然の大切さに触れてもらいます。野菜収穫時には、料理教室を開いて、栄養についても教えます。

### ～レストランを開く～ アリン

地元マレーシアのサバ州と日本のスタイルを合わせたお店を開きたいです。日本で勉強した料理をふるいます！

### ～森を作る～ ビオレタ

年々、メキシコで木が減少しつつあるので、森林再生活動をします。地元で有名なサボテンを植えます。

### ～パン教室を開く～ オードリー

マレーシアでは、失業率が20%です。職につけない若い人のために、パン作りの基本を教えて、パン屋で働けるようにしたいです。